

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成22年1月21日(2010.1.21)

【公開番号】特開2008-138102(P2008-138102A)

【公開日】平成20年6月19日(2008.6.19)

【年通号数】公開・登録公報2008-024

【出願番号】特願2006-326578(P2006-326578)

【国際特許分類】

C 0 8 L 67/04 (2006.01)

C 0 8 K 3/32 (2006.01)

C 0 8 K 5/521 (2006.01)

C 0 8 L 101/16 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 67/04

C 0 8 K 3/32 Z B P

C 0 8 K 5/521

C 0 8 L 101/16

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月30日(2009.11.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ポリ乳酸 (A) とポリ乳酸系ブロック共重合体 (B) を含有してなる樹脂組成物であって、

前記樹脂組成物が、前記ポリ乳酸系ブロック共重合体 (B) を 15 ~ 60 重量 % 含有し

、

かつ、明細書にて定義される方法により測定される該樹脂組成物の酸価が 60 [当量 / t] 以下であり、かつ、J I S - K 7 2 1 0 に準拠して測定されるメルトポリウムフローレート (M V R) が 10 [c m ³ / 10 m i n] 以下であることを特徴とするポリ乳酸系樹脂組成物。

【請求項 2】

前記ポリ乳酸系ブロック共重合体 (B) が、分子量 1500 以上のポリ乳酸セグメントを有したポリアルキレンエーテルとのブロック共重合体であることを特徴とする請求項 1 記載のポリ乳酸系樹脂組成物。

【請求項 3】

前記ポリ乳酸系ブロック共重合体 (B) が、触媒活性低減剤として、リン系酸性化合物を含有しているものである請求項 1 又は 2 のいずれかに記載のポリ乳酸系樹脂組成物。

【請求項 4】

前記ポリ乳酸系樹脂組成物が、リン原子を 70 p p m ~ 350 p p m の範囲で含有するものである請求項 3 に記載のポリ乳酸系樹脂組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

本発明は、上記課題を解決するために、次のような手段を採用するものである。すなわち、本発明のポリ乳酸系組成物は、ポリ乳酸（Ａ）とポリ乳酸系ブロック共重合体（Ｂ）を含有してなる樹脂組成物であって、前記樹脂組成物が、前記ポリ乳酸系ブロック共重合体（Ｂ）を１５～６０重量％含有し、かつ、後述する方法により測定される該樹脂組成物の酸価が６０〔当量／ｔ〕以下であり、かつ、後述する方法により測定されるメルトポリウムフローレート（ＭＶＲ）が１０〔 $\text{cm}^3 / 10\text{min}$ 〕以下であることを特徴とするものである。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００５７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

該ペレットを用いて、上吹きインフレーション製膜を行ったところ製膜性は良好であり、得られたフィルムの経時安定性も良好であった。

〔比較例３〕

Ｌ－ラクチドとポリエチレングリコール（分子量１００００）に触媒を用いて、ブロック共重合体（Ｂ）を合成した。合成終了後、触媒失活剤として、リン酸を０．１５重量％添加し、攪拌したのち、脱揮によりモノマー（ラクチド）を除去した。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００６８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0068】

【表１】

【表１】

		実施例１	実施例２	実施例３	比較例３	比較例１	比較例２
ポリ乳酸	(重量%)	85	70	64	40	90	30
ブロック共重合体	(重量%)	15	30	36	60	10	70
酸価	[当量/t]	10	18	23	54	9	75
MVR	[$\text{cm}^3 / 10\text{min}$]	5	7	9	20	3	50
P量	[ppm]	71	140	190	350	47	440
経時安定性		A	A	B	C	D	－
加工性		○	○	○	○	×	×